

ひまひま データ

数字で遊ぶ
ボートレース

祝！ 毒島誠選手、初の賞金トップ。毒島選手が築いてきた数々の記録をまとめます

表1-1 ●15年以降、毒島選手の年別賞金ランキング

| 年 | 賞金ランク | 獲得賞金額 | SG優出 | SG優勝 |
|------|-------|--------|------|------|
| 2015 | 2位 | 12615万 | 2回 | 0回 |
| 2016 | 24位 | 5306万 | 2回 | 0回 |
| 2017 | 7位 | 10349万 | 2回 | 1回 |
| 2018 | 2位 | 19277万 | 4回 | 2回 |
| 2019 | 2位 | 17941万 | 5回 | 2回 |
| 2020 | 3位 | 15520万 | 3回 | 1回 |
| 2021 | 11位 | 9138万 | 2回 | 0回 |
| 2022 | 13位 | 8847万 | 2回 | 0回 |
| 2023 | 14位 | 8654万 | 0回 | 0回 |
| 2024 | 1位 | 24678万 | 4回 | 2回 |

●賞金ランク2位が3回も
表1-1は毒島選手の年別成績。最初の賞金2位は15年。この年の1位は山崎智也選手で2・29億円。毒島選手は1・26億円で、2位といっても1億円以上の開きがありました。18年と19年はSGを2回ずつ優勝したこともあり、最優秀選手に次ぐ成績ということで、ともに「特別賞」

毒島誠選手がグランプリ初制覇。賞金ランク2位が今まで3回ありましたが、ついに初の賞金1位となりました！そして40代の2億円レーサーは5件目・5人目で、年長では3位。さらに住之江ナイターのSG優勝により、ナイター7場のGI以上を全て制覇したことにもなりません。今回は毒島選手についていろいろまとめてみたいと思います。

表1-2 ●96年以降、SG連続出場ランキング (95年以前から続く継続分は集計に含む)

| 連続出場 | 登番 | 選手名 | から | まで |
|------|------|-------|--------------|--------------|
| 75 | 4238 | 毒島 誠 | 13年7月オーシャンC | 22年10月ダービー |
| 51 | 4044 | 湯川 浩司 | 07年5月オールスター | 13年7月オーシャンC |
| 47 | 3415 | 松井 繁 | 12年8月メモリアル | 18年6月グラチャン |
| 39 | 1864 | 安岐 真人 | 93年5月オールスター | 98年12月GPシリーズ |
| 38 | 3415 | 松井 繁 | 95年8月メモリアル | 00年8月メモリアル |
| 37 | 3415 | 松井 繁 | 07年11月チャレンジC | 12年6月グラチャン |
| 35 | 3590 | 濱野谷憲吾 | 97年8月メモリアル | 01年12月GPシリーズ |
| 30 | 4444 | 桐生 順平 | 18年8月メモリアル | 22年5月オールスター |
| 30 | 3941 | 池田 浩二 | 21年6月グラチャン | (継続中!) |

以下は継続中上位

| | | | | |
|----|------|-------|-----------|--------|
| 25 | 4586 | 磯部 誠 | 21年GPシリーズ | (継続中!) |
| 23 | 4262 | 馬場 貴也 | 22年オールスター | (継続中!) |
| 17 | 4445 | 宮地 元輝 | 22年GPシリーズ | (継続中!) |

表1-3 ●92年以降、賞金ランク「2位」回数上位

| 2位回数 | 登番 | 選手名 | 2位の年 |
|------|------|-------|--------------|
| 4回 | 3388 | 今垣光太郎 | 99・01・02・10年 |
| 3回 | 4238 | 毒島 誠 | 15・18・19年 |
| 3回 | 4320 | 峰 竜太 | 17・21・23年 |

(参考)91年以前を含めた場合、今村豊選手も4回あるようです。

賞金ランク2位が3回もある選手は珍しいのではなにかと調べてみました(表1-3)。すると今垣光太郎選手が4回ありました。集計対象外ですが、今村豊選手も4回の2位があつたようです。その今村豊選手を含めた4人のケP優勝者が賞金1

を受賞しています。特に19年はGP直前まで上位にいて、本当に残念な2年連続の2位という印象が強く残っています。20年こそ3位と健闘していますが、21年から状況が変わってきました。3月のクラシックで優出はあるものの、5月〜11月のSG6大会の優出が0回ということが3年間(21〜23年)続きます。もちろんこの間もGI・GIIの優勝はありますが、何か今までの毒島選手とは違うような感じがしていました。22年には8月のお盆レースでFを切り、チャレンジCがF休みに。これによってSG連続出場が75節(13

年8月メモリアル〜22年10月ダービー)で途切れてしまいました(表1-2)。22年と23年のグランプリは、2年連続で1st敗退。23年は年間を通じてSG優出0回でした。賞金ランクも3年連続2ケタに。もしやこのまま毒島選手は…、と思ってしまうつもりでしたが、24年3月クラシックで久しぶりのSG優勝！予選最終日は12Rの6号艇に組まれていましたが、7R以降打ち切りという96年以降のSGでは「初」の途中打ち切りで、6号艇を走らなくていいという運もありました。いや、その前の節にF休み明けの桐生一般戦で11連勝の完全優勝を達成したところから、勢いが出てきたのでしょうか。ちなみに毒島選手は15年に地元桐生の一般戦で完全優勝に2度挑戦をしたのですがどちらも失敗。24年3月に初の地元での完全優勝を達成したところだったのでした。

表3-1 ●40歳以上で2億円以上

| 年 | 登番 | 選手名 | 年齢 | 獲得賞金額 | 歴代順位 |
|------|------|-------|---------|---------|------|
| 2015 | 3622 | 山崎 智也 | 41歳9か月 | 2億2933万 | 9位 |
| 2023 | 4168 | 石野 貴之 | 41歳6か月 | 2億2203万 | 13位 |
| 2024 | 4238 | 毒島 誠 | 40歳11か月 | 2億4678万 | 7位 |
| 2016 | 3783 | 瓜生 正義 | 40歳9か月 | 2億1373万 | 16位 |
| 2009 | 3415 | 松井 繁 | 40歳1か月 | 2億5120万 | 5位 |

※年齢はその年の12月31日時点です。

表3-2 ●50歳以上で1億円以上

| 年 | 登番 | 選手名 | 年齢 | 獲得賞金額 | その年の順位 |
|------|------|--------|------------|---------|--------|
| 1995 | 2291 | 野中 和夫 | 51歳11か月30日 | 1億790万 | 6位 |
| 1996 | 1864 | 安岐 真人 | 51歳11か月20日 | 1億3578万 | 5位 |
| 2020 | 3415 | 松井 繁 | 51歳1か月 | 1億1017万 | 6位 |
| 1994 | 2291 | 野中 和夫 | 50歳11か月30日 | 1億852万 | 3位 |
| 1995 | 1864 | 安岐 真人 | 50歳11か月20日 | 1億3553万 | 5位 |
| 2023 | 3590 | 濱野谷 憲吾 | 50歳1か月 | 1億985万 | 9位 |

表3-3 ●賞金1位の年長記録上位4

| 年 | 登番 | 選手名 | 年齢 | 獲得賞金額 |
|------|------|-------|------------|---------|
| 1993 | 2291 | 野中 和夫 | 49歳11か月30日 | 1億7223万 |
| 1992 | 2291 | 野中 和夫 | 48歳11か月30日 | 1億6249万 |
| 1991 | 2291 | 野中 和夫 | 47歳11か月30日 | 1億4167万 |
| 2022 | 3897 | 白井 英治 | 46歳2か月 | 1億8779万 |

表2 ●02年以降、GP優勝の
その年のSG別の優勝者数

| タイトル | 開催数 | GP優勝者 |
|--------|-----|-------|
| クラシック | 22 | 3 |
| オールスター | 23 | 4 |
| グラチャン | 23 | 1 |
| オーシャンC | 23 | 3 |
| メモリアル | 23 | 1 |
| ダービー | 23 | 3 |
| チャレンジC | 23 | 2 |
| 復興支援 | 1 | 0 |

位となった年でした（グランプリが始まって39回。そのうちGP優勝者と賞金1位が同じケースは31回なので当然といえば当然ですが）。ちなみに、今村選手と今垣選手はGP優勝がないものの、今村選手は

1回だけ賞金1位になったことがあります。それは04年で、この年の今村選手は5月のSGオールスターが始まる前の5月18日に1億円を突破したという伝説の年。その後、チャレンジCがF休み、GPも優出できませんでしたが、GPを選出12位の田中信一郎選手が優勝したこともあり、辛くも400万円ほどの差で逃げ切ることができました。オールスター前に1億円という、とんでもない記録を残すことよって手に入れた生涯1度だけの賞金1位でした。

●クラシック優勝→GP優勝は3人目
去年の毒島選手は、3月のクラシックで優勝し、GPでも勝ちました。

クラシックを優勝してGPも優勝した選手は何人くらいいるのでしょうか。調べてみると、今回を含め3人だけでした（13年・池田浩二選手と17年桐生順平選手）。

そういえば86〜01年では、GP優勝者がその年のSGで1回以上優勝していたケースは93年の野中 和夫選手（オールスター優勝）だけだったので、ある意味当然なのかもしれません。その年にSGを優勝するとGPで優勝できないと言われていた時代です。

02年以降では、GP優勝者の6割がその年のSG優勝経験者です（表2）。最多でもオールスター優勝→GP優勝が4人。クラシックが3人になりましたから、他のSGと大差はなくなりました。ただグラチャンとメモリアルは1人だけ。グラチャンは15年の山崎智也選手。メモリアルは20年以上前の03年田中信一郎選手。うーん、そう言えば、13年と18・19年のメモリアル優勝者は毒島選手でしたね。もちろんだからと言ってメモリアルで優勝しない方がいいということではありません！

●GP優勝→クラシック優勝の連続優勝は0人

それとは逆のようになりませんが、GP優勝した翌年の3月クラシックも優勝という2大会連続Vはあるのでしょうか？先に書きますが、「ありません」。GP優勝の勢いのままに3月クラシック優勝をした選手はいません。というわけで毒島選手には、クラ

シック連覇の挑戦がかかることもに、誰も成し遂げていないGP→クラシックのSG連続優勝もかかるということになります。

●40代の2億円レーサー

毒島選手は昨年末時点で40歳11か月。去年の石野貴之選手に続き40代選手の2億円レーサー誕生となりました。40代の2億円レーサーは意外と少ないようで5人目。複数回達成した選手はまだいません（表3-1）。

史上初の40代2億円レーサーは09年の松井繁選手でした。その時の獲得賞金額が2億5120万円。その6年後に41歳9か月の山崎智也選手が達成し、最年長記録となっています。

1億円レーサーの年長ランキングも見ておきましょう（表3-2）。94年1月1日に50歳になった野中選手が最初の50代1億円レーサーだったようです。年末時点では50歳11か月と30日。翌年には同じく50代となった安岐真人選手とともに1億円達成。その95年の野中選手の年齢が1億円レーサーの最年長記録で、30年近く破られていないようです。

近年では20年に松井選手が、50代としては24年ぶりの1億円レーサーに。23年には濱野谷憲吾選手が。でも野中選手の51歳11か月を超えることはできていません。

賞金1位の年長記録はどうでしょうか（表3-3）。上位3はどれも野中選手。91〜93年は連続で最年長記録を更新していたことがわかります。そして94年以降は50代となり、



ついに黄金のヘルメットをかぶった毒島誠選手

表4-1 ●毒島選手のGI以上
ナイターの場初優勝

| 場 | 場初優勝日 | タイトル |
|-----|------------|----------|
| 丸亀 | 2013/09/01 | SGメモリアル |
| 桐生 | 2015/09/20 | GI周年 |
| 下関 | 2017/11/26 | SGチャレンジC |
| 若松 | 2018/07/16 | SGオーシャンC |
| 大村 | 2019/09/01 | SGメモリアル |
| 蒲郡 | 2020/11/29 | SGチャレンジC |
| 住之江 | 2024/12/22 | SGグランプリ |

表4-2 ●10年5月以降、
「桐生」SGでの毒島選手

| 年月 | タイトル | 成績 |
|--------|--------|-------|
| 10年10月 | ダービー | (不出場) |
| 12年8月 | メモリアル | 予選敗退 |
| 16年8月 | メモリアル | 準優3着 |
| 19年11月 | チャレンジC | 優出5着 |

1位はなくなりまりましたが、表3-12のように50代での1億円達成記録を作っています。それらが30年近く更新されていないとは！

もうそろそろ誰かが野中選手の記録を更新するのか、それとも定松勇樹選手のような20代の選手に時代が変わるのか、その境目に来ているのでしょうか。

●ナイター7場で初のGI以上全制覇

ナイターは97年9月20日に桐生から始まり、徐々に増えて現在7場です。GI以上ナイターの1場目の制覇者は山崎智也選手で、2場以降に増えてから、ナイター全場制覇したのは毒島誠選手だけです。

GI以上ナイター2場制覇者が誕生したのは06年6月15日の辻栄蔵選手。その時点でナイター3場になったから2年が経過していました。

毒島選手は表4-1のようにGI以上ナイター7場を制覇。GI以上と条件を緩くしているのですが、実は7場のうち6場はSGで制覇。残る1場は地元の桐生なのです。

毒島選手がSGデビューしたのは10年5月。それ以降に行われた桐生のSGは4回しかありません(表4-1-2)。優出は19年チャレンジCの1回だけ。そして、来年度も桐生でSGはありません。GI以上ナイター全場制覇だけでも凄いことですが、SGでも全7場揃えられるところまで来ています。しかも残すは地元！まずは桐生のSG開催が待たれます！

ちなみにSGナイター5場制覇も4場制覇もいません。6場の毒島選

手に続く選手は3場タイで石野貴之選手(残、桐住下大)と峰竜太選手(残、桐住下大)だけ。

●年間の最速1億円とGP優勝

以前、年間(1月〜)で最初に1億円を突破した選手はグランプリで優勝できないことをまとめたことがあります。90年〜24年の35年間でその条件をクリアしたのは、93年野中選手、15年山崎選手、20年峰選手の3人だけ。18年は毒島選手がメモリアル優勝の時点で最初に1億円突破となりましたが、GPでは優勝できませんでした。

そして22年〜24年は3年連続で馬場貴也選手が最初の1億円突破者。22年は同時に突破した山口剛選手も該当。3年連続というのは史上初のことでした。すなわち3年連続GPを優勝できていないということでもあります。毎年、馬場選手VS誰かという形で進んでいるような気がします。

思い起こせば私は、デビュー当初の92期(毒島選手ら)、93期(馬場選手ら)をそっこのけでその後にはデビューした94期や95期ばかり追っていました。94期はデビュー期に勝率5点台を残した稲田浩二・古賀繁輝選手がいて、95期はデビュー1年で5優出もした峰選手が気になっていたので。06年の最優秀新人は、92期・93期を飛び越して峰選手が受賞。今ポート界を引っ張っている毒島選手や馬場選手のことが見えていなかったことを恥ずかしく思います…。